

スーパーエコスクール実証事業：生駒・鹿ノ台中、省エネ学習の場に 基本計画まとまる

毎日新聞 2013年04月25日 地方版

創エネ、蓄エネ、省エネで、年間エネルギー消費実質ゼロを目指す生駒市立鹿ノ台中（小中一弘校長）のスーパーエコスクール実証事業の基本計画がまとまった。中庭へのエコホール新設、生徒が発案した小型水力発電「かぜまるくん」と足踏み発電、太陽光発電導入などを盛り込んでいる。

計画によると、エコホールでは、各教室で使われたエネルギー量を一覧できるようにするほか、関連の図書やパネルを置き、地域の人を含めた学習の場にする。太陽光発電装置は校舎の屋上ほぼ全体を利用し、90キロワット分（一般家庭25〜30世帯分）を設置する。その他、省エネ型エアコンへの更新、照明のLED化や人感センサー導入などを進める。また、生徒会などが省エネへの協力をさまざまな形で呼びかける。

実証事業は、文部科学省の昨年度から14年度まで3年間の新規事業。全国3校が対象で、他の2校は小学校のため、鹿ノ台中は唯一の中学校。基本計画は、専門家、学校、地元、保護者、生徒代表らが参加したワークショップを昨年12月から4回開き、まとめた。市は計画に基づき今年度に設計し、来年度に改修工事を進める。【熊谷仁志】